

和歌山大学教育学部：山崎由可里（研究代表）

和歌山市立伏虎義務教育学校：清水直美

## 1. 本研究の目的

(1) 本研究の目的は、T 特別支援学級（小学校：自閉症・情緒障害。以下、T 学級）在籍の児童の実態にもとづき、主として「人間関係の形成」「コミュニケーション」「心理的安定」を意図する自立活動に取り組み、その意義や課題を検討するものである。

### (2) 児童の実態

T 学級の子どもたちは、自分の好きなことには夢中になって頑張ることができる半面、気持ちが落ち着かず、感情をコントロールできず衝動的な行動をとったり、友達に自分の気持ちをことばでうまく伝えることができなかつたりして、まわりに誤解を与えてしまう姿も時々見受けられる。このように、他者とのコミュニケーションに困難を感じたり、心理的に不安定な状態に陥ったりしやすいために、児童の中には何かをやり遂げる達成感を感じるできないこともあり、自分に自信がもてない者もいる。

### (3) 達成感や自己効力感を高める自立活動の設定

上記のような子どもたちの実態をふまえ、自立活動の中でも特に「人間関係の形成」「コミュニケーション」「心理的安定」を柱に、子どもたちが見通しをもって持続的に取り組んだり、友達と協力したりして、まわりに自分のがんばりを認められることで達成感を得、自己効力感を高めるような自立活動を設定した。

なお、T 学級では、2017 年頃より、今年度と同様の 2 月の「おでんやさん」をメインとした自立活動に取り組んでいる。ただし、子どもの実態や人数、学年構成などによって活動内容が若干変化している。長年にわたって「おでんやさん」に取り組んできたのは、ややもすれば感情のコントロールが難しく友達とトラブルを起こしたり、気持ちが落ち着かなかつたりして、物事に持続して取り組むことが苦手な子どもたちが、見通しをもってがんばり、まわりから認められることで自信を育んで心を安定させ、自己効力感を高めることを意図する活動として設定してきているためである。

## 2. 2023 年度の自立活動

T 特別支援学級（以下、T 学級）の自立活動は、概ね週 1 時間設定されている。今年度 T 学級では、S 特別支援学級（知的障害。以下、S 学級）と合同での活動も含め、表 1 のような活動を行ってきた。ただし、自立活動のすべての時間を表の活動に充てているわけではない。また、個々の活動は合同で取り組むものもあれば各学級単独で行うものもある。

表. 2023 年度における主な自立活動

月	取り組み	
4 月	畑づくり、野菜の苗植え（トマト、枝豆、さつまいも）	合同
5・6 月	草抜き、水やり	合同
7 月	枝豆の収穫、トマトの収穫	合同
9 月	トマトソースづくり、ピザパーティー、大根の種まき、ショウガを植える。※ピザパーティーは S 学級が他の支援学級の児童生徒と校内の先生を招待する形で実施。	合同
10 月	畑の世話（大根の間引きなど）、いもほり	合同
11 月	1～9 年生合同の縦割りグループで調理。 わらのみごとり。	合同 T 学級
12 月	しめなわづくり（わらをなう、折り紙で飾りをつくる） きんかんジャムづくり（販売）、みご箒づくり（販売）、しめなわ市（販売）	T 学級
1 月	おでんやさんの準備	T 学級
2 月	おでんやさんを開き、あらかじめ招待状を送っておいた他の支援学級に児童生徒と校内の先生方をおもてなしする。	T 学級



4 月から 9 月にかけて、T 学級、S 学級合同で行う畑づくりや野菜づくりは、9 月に実施するトマトソースづくり（ピザパーティーで販売）や、S 学級が単独で実施するピザパーティーのための準備でもある。

このように具体的でわかりやすい目的が設定されていることで、4 月以降の草抜きや水やりなどの作業も意欲を持って継続的にがんばったり、トマトの皮をむいて細かく刻むなど手間のかかるソースづくりにも集中して取り組み、トマトソースを買ってもらえるよう先生方に宣伝したりと、みんなで協力して取り組んできた。また、販売の際に先生方から「美味しそうなソースだね」「がんばってつくったね」と声をかけてもらうことで、達成感を味わったり自己効力感を高め自信をつけたりする様子が見られた。

12 月には、きんかんジャムづくり（自分たちで食べる他先生方にも販売）、みご箒づくり、お正月用のしめなわを緋い、翌年の干支の折り紙などで飾り付けを行った。これらの作業は、「わらを

たたく係」「折り紙で飾りをつくる係」などの役割を分担しながら取り組んだ。そして、先生方に買ってもらい、その売上金が2月のおでんやさんで販売するおでんの具材購入に充てられる。

あらかじめ子どもたちから「しめなわ市のお知らせ」をもらっていた先生方が教室にやってくると、「どのしめなわがいい？こっち、かっこいいでしょう?!」「この折り紙の飾り、僕がつくったんだよ」と各々がアピールし、しめなわが売れると「やった!!」と喜びを表現していた。また、売り上げとおつりのお金の出し入れにはレジを用い、売れた品物の数を正の字で記録する。この作業を担当した児童は、おでんの具材購入に足りるかどうか、真剣な面持ちで売上金を数えていた。

1月、子どもたちは、他の支援学級の友達や先生方によるこんでもらえるおでんやさんの開店に向け、おでんやさんへの招待状やおでん券を作成して届けるなど、はりきって準備をしているところである。

### 3. 今年度の自立活動の意義と今後の課題

今年度の活動の意義として、以下の二点が挙げられる。

第一に、「おでんやさん」に至るこの自立活動は、子どもたちにとって、毎年経験を積み上げているものであり、自信と見通しをもって取り組めるという意義をもつ。このことは、上級生になれば必要な作業を下級生に手ほどきしたり、集中力が途切れることがあっても気持ちを立て直してまた挑戦したりするといった子どもたちの姿から読み取ることができる。

第二に、自分たちの手で加工したトマトソースやジャム、しめなわなどが売れ、買ってくれた先生方に喜ばれ、称賛の声掛けをしてもらうことで、自信や自己効力感を高め、達成感を実感できるという意義をもつ。日頃、特に交流学級での学習では集中力を欠いてしまったり、不用意な言動で友達とトラブルを起こしたりするなど、さまざまな困難を抱えがちな子どもたちが、自分たちの手でつくったものを先生方に喜んでもらえるという経験を積むことによって、「がんばれる・できる」自分に気づき、自信や達成感を味わうことができると思われる。

今後に向けての課題として、これまで支援学級の友達や先生方を対象におもてなしや販売をしてきたけれど、これを①交流学級の友達と協働で取り組んだり、②交流学級の友達にもおもてなしをしたりするなど、「おでんやさん」に至るまでの過程やおもてなしの相手を変化させることで、新たな形で「人間関係の形成」やコミュニケーション力の向上を意図することが挙げられる。